

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 35 (年4回発行)

- 発行日 平成16年12月15日
- 発行 三春まちづくり協会
- 編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町字大町178 (旧公民館内)
TEL/FAX (62) 3988

町の財政を考える意見交換会から・・・



10月7日、三春まちづくり協会主催の「町の財政を考える意見交換会」が開催されました。意見交換会の模様や質問事項と町当局からの回答内容は、11月1日付けの『三春わが街』号外および隣組回覧で周知された資料のとおりですが、その後寄せられた町民のみなさんの意見や、地域部会での検討を基に、三春町の財政事情について特集しました。

なぜ、三春まちづくり協会でこのような取り組みをするのか

三春町は「当面、合併しない」ことを選択し、内外に表明しました。合併しないことにより想定される町の行財政の厳しさに立ち向かうには、議会や町の行政担当者だけでなく、町民も一体となって頑張っていかなければなりません。そのために、私たち町民も行政や財政の実状を良く理解し、まちづくり協会の活動をとおして、町民にできることは、できるだけ自分たちで実践することにより、より良いまちづくりを進める必要があります。

三春まちづくり協会では、協会の全体事業として今回のような勉強会を今後も継続的に開催していくこととしています。

町の財政はどうなっているのでしょうか？

○まず、町の財政を簡単な数字で大きく捉えてみましょう。

■一般会計 (平成15年度)

- ◎歳入は…約65億円 (町債7億円を含む)
- ◎歳出は…約63億円
- ◎借入金の残高は…約132億円
- ◎毎年の返済 (公債費) は…約14億円 (繰上返済を含む)
- ◎町税収入は…約16億円

※町の借入金の残高には他に企業会計の59億円があり、合計では191億円になります。

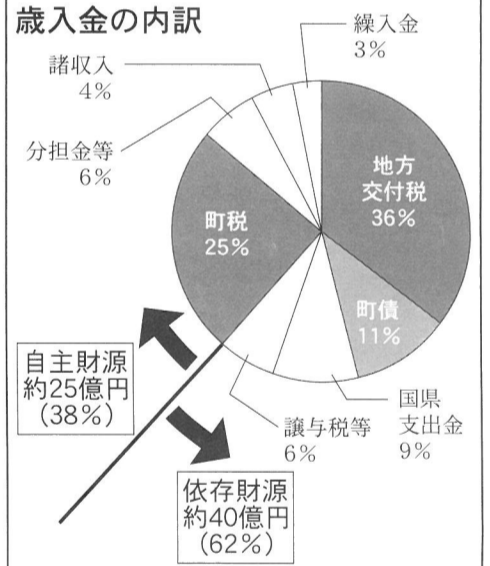
つまり、金額面だけで見れば、町税収入のほとんどが、借入金の返済にあてられているということになります。そうすると、町民サービスを行うための主な財源は地方交付税ということになりますが、今年度、地方交付税は3億円近く減少しています。今後ますます厳しい状況になることが予想されます。

■町の会計には、一般会計の他に、特別会計 (国民健康保険・老人保健・介護保険など) と、企業会計 (水道事業、下水道事業など) があります。

詳しくは広報みはる10月号をご覧ください。

平成17年度予算については、来年の広報みはる5月号に掲載予定です。

歳入金の内訳



○町の資料・説明で分かったこと

- ・一般会計の歳入 (年間の収入) 約65億円の6割強が地方交付税や町債 (借入金) など依存財源であること。
- ・収支差額は約2億円の黒字であるが、歳入に町債による借入が約7億円含まれている。(交付税の代替である臨時財政対策債や減税補てん債等約5億円が含まれる)
- ・主たる一般財源の地方交付税が、国の三位一体政策の推進等で年々予想以上の減額になっていること。
- ・主たる自主財源の町税の収入が、経済情勢の影響で現在横ばい傾向にあること。
- ・町の借金は、平成15年度末で約191億円 (一般会計約132億円、企業会計約59億円) あり、年度毎に約15億円から16億円を返済しなければならないこと。また、年度毎に新規に借り入れる町債の返済を考えると、借金が減り始めるのは概ね平成21年度以降であること。

○町はどのように判断しているのか？

- ・国の財源不足により、平成13年度から地方交付税の一部が、臨時財政対策費という借入金に変わるなど実質的に減額となっている。ただし、この分は後年全額交付税に参入される制度である。
- ・町債は、一定の公共事業等に対する資金として調達される借金で、法に基づき国や県の許可によるものであり、返済についても計画的に実施されている。
- ・平成14年度の合併問題の検討時点で想定した以上に財政事情が厳しくなっているが、合併を考えるより、事務事業の効率化、人件費、物件費 (需用費、委託料他) などの削減を図り、行政サービスの維持・向上を進めている。

○町はどのように対応していくのか？

- ・第二次行政改革大綱 (3カ年計画) を策定し、収入の増大と支出の削減により借入金の早期減額を図り、健全な財政運営による自主・自立のまちづくりを目指しています。

■第二次行政改革大綱の内容

1. 事務事業の見直し
2. 職員数人事管理、制度の見直し
3. 自主財源の確保
4. 行政サービスの向上
5. 町民と行政との協働

○町民の皆さんからの意見

- ・もう少し分かりやすい資料がほしい
- ・借金だけでなく、資産を含めた町の財政が知りたい
- ・他町村と比較した三春の現状が知りたい
- ・町民に望むこと、いま町民がすべきことが具体的に見えない
- ・今の財政状況でも、合併しないでやっていけるのか
- ・自主財源を増大させる地域産業の振興を具体的に展開するべきではないのか
- ・役場の担当者が減って、行政サービスが低下するのではないのか
- ・自治体間の地域格差が広がる心配はないのか
- ・町民の負担が増大することはないのか

公共下水道事業はどうなっているの？今後どうなるの？

町企業局から説明された資料から、三春町の公共下水道事業の現状を探ってみました。
三春町の下水道事業はどのような状況にあるのでしょうか

○企業局の資料・説明で分かったこと

- ・公共下水道の供用地域に対する関連工事の進捗は、全体計画の約53%であるが、平成17年度までの認可計画に対しては約98%の状況であること。
- ・関連工事のうち、処理場は第1期工事が完了した。管渠（下水道管の埋設等）については、平成12年度以降事業量を減らしていること。
- ・公共下水道供用区域の戸別接続率は、平均約46%であるが、地区別に見ると、大町の70%から新町の約17%とバラツキがあること。
- ・残る地区の整備には約50億円かかるので、公共下水道の工事完了には20年以上かかる見通しであること。
- ・三春町の下水道は、建設費が1戸当り約400万円以上かかるので、料金は近隣および全国の市町村と比べ、相当高い状況にあること。

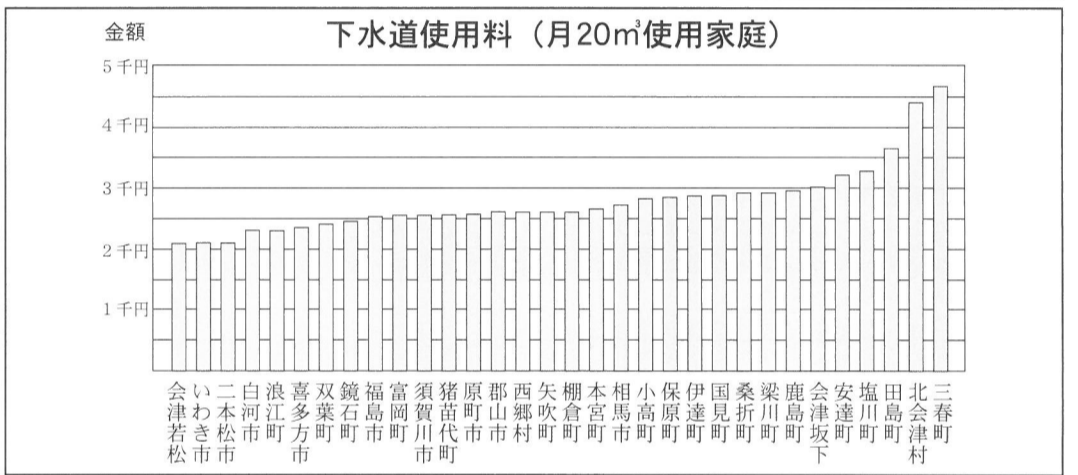
○企業局の考え

- ・公共下水道事業のうち、処理場についてはほぼ予定通り進捗しているが、戸別接続（使用開始）が遅れているので、これからの管渠工事は要望の多い地域から実施し効率化を図る。
- ・接続率の上がらない理由は、①既に浄化槽により水洗化生活を実現した住民が70%いること、②高齢化で費用負担が大変なこと、③接続工事費（各戸負担）が宅地条件により高額となることがあげられる。地域の状況により町設置型合併処理浄化槽に変更するなど、集合処理と個別（戸別）処理の併用方式を採用し、水洗化の要望に対応する。
- ・下水道利用料金は建設費借入金の元利償還等のコストが使用料収入の2倍以上になっているため、下がる見込みはない。しかし、民間委託など企業努力により10年間は上げない方針である。
- ・三春町は、公共下水道、農業集落排水、浄化槽の3つの方法で下水道を整備している。負担はどの事業で整備しても不公平にならないように、1戸当り、受益負担金は25万円、使用料は月額4,700円程度に統一している。

公共下水道の各地区の接続率

(平成16年9月末現在)

地区	対象戸数(戸)	接続戸数(戸)	接続率(%)
大町	155	109	70.3%
中町	96	30	31.3%
八幡町	385	179	46.5%
荒町	288	121	42.0%
北町	165	44	26.7%
新町	42	7	16.7%
八島台	361	193	53.5%
合計	1492	683	45.8%



○町民の皆さんの意見

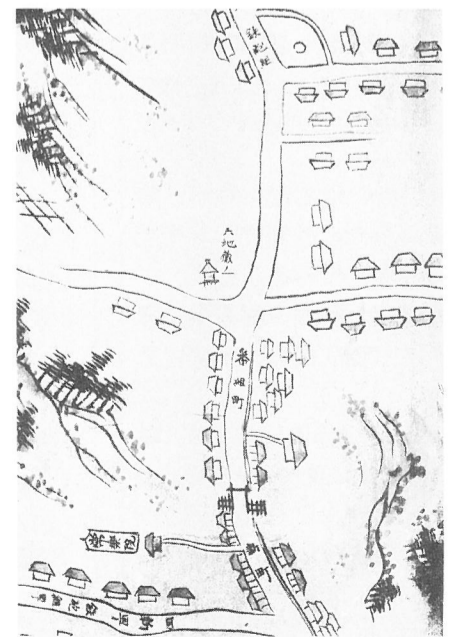
- ・公共下水道の基本工事が終わっても、各戸の接続率があがらないのはどうしてか。
- ・三春町の上下水道料金は、他市町村と比べ相当高いと思うがどうしてか。
- ・三春町は市街地域および住宅地域の地形や集積状況からみて、公共下水道方式には無理があったのではないか。
- ・公共下水道の戸別接続率向上には、どのような施策を考えているのか。
- ・すでに使用開始している人が不公平感を持たないような施策を考えて欲しい。
- ・公共下水道は、町民や事業所の快適性や利便性だけでなく、地域環境保全の観点から全町的な課題として検討してほしい。

今秋は築城五百年記念産業祭という大きな行事があり、いつも静かな三春町が人々の波であふれ、菊日和に恵まれた土日の二日間、町は楽しく輝いていました。反面、お隣の新潟県で中越地震の災害に遭い、これから厳冬を迎える人々のことを考えると心が痛みます。さて三春まちづくり協会ではかねてから予定していた三春町の財政を考える町民意見交換会

編集後記

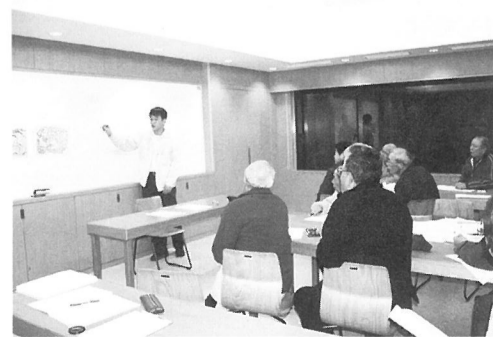
- 一、城下町と街道
- 二、城下町三春
- 三、三春城下の街道
 - ・江戸街道 ・会津街道
 - ・本宮街道 ・小浜街道
 - ・相馬街道 ・岩城街道
- 四、六地藏について

十一月二十日、街並部会主催の勉強会が開催されました。三春町歴史民俗資料館の藤井康学芸員を講師に、城下町三春を中心とした街道の成り立ちや役割、そして往來の無事と人々の安寧を祈願した六地藏についての歴史的背景を勉強しました。当日、藤井さんが用意してくれた資料は次のような内容です。



三春町全図（寛政五年）より

街並部会勉強会 「三春に関わる街道」



なお資料の残りが少しありますので、ご希望の方は、三春まちづくり協会事務局までご連絡ください。

を開催いたしました。財政改革に関する質問七項目、上下水道に関する質問六項目について、行政の担当者による説明と質疑応答があり、緊張感のある議論が交わされました。不勉強な私は身の引き締まるひとときでした。これを機に、今後は行政と町民の対話を大切にして透明度のあるまちづくりをしていけたらと願っています。

(永山)